

9. 情報源への接触

問10 投票をどうしようか考える際に参考にしたものについてお尋ねします。

[1] 投票日までに、今回の住民投票に関して、あなたが見たり、聞いたりしたものがこの中にありましたら、あてはまるもの全てに○を付けてください。

		【旧佐久市】	%
		市の広報や配布資料	621 78.7
		賛成派・反対派などのチラシ	461 58.4
		テレビ	216 27.4
		新聞	283 35.9
		街頭演説	51 6.5
		インターネット	20 2.5
		近所の住人との会話	277 35.1
		この中のどれも見聞きしない	30 3.8
		その他	38 4.8
99		無回答	12 1.5
		合計	789 100.0

		【臼田・浅科・望月】	%
		市の広報や配布資料	561 74.3
		賛成派・反対派などのチラシ	424 56.2
		テレビ	192 25.4
		新聞	273 36.2
		街頭演説	41 5.4
		インターネット	15 2.0
		近所の住人との会話	253 33.5
		この中のどれも見聞きしない	40 5.3
		その他	23 3.0
99		無回答	12 1.6
		合計	755 100.0

参考にした情報源に関する一連の設問は、市町村合併や基地問題をめぐる住民投票に関して、私が過去に実施した4件の調査とほぼ同一の選択肢を設け、事例間の比較が可能となるようにしたものである。

まず[1]を見ると、旧佐久市および旧町村部いずれにおいても、市の広報や配布資料に目を通してしている人が約4分の3程度いることが分かる。この数字は、過去の4件の調査と比較しても概ね同様であり、佐久市の住民投票でも、行政が発行する資料が広く参照されていたと言える。賛成派・反対派などのチラシについても、過去の調査と比べて大きな差はない。

一方で、テレビや新聞といったメディアから発信された情報に接したという人は、両地域ともに3割前後にとどまる。住民投票の関連記事については、地元紙である信濃毎日新聞を中心として比較的多く扱われてはいたが、報道量としては、市民の注目を集めるほど十分なものではなかったのかもしれない。

[2] ではこの中で、今回の住民投票に関して一番参考にしたものを、一つ選んで○を付けてください。

		【旧佐久市】	
			%
1	市の広報や配布資料	286	36.2
2	賛成派・反対派などのチラシ	113	14.3
3	テレビ	16	2.0
4	新聞	45	5.7
5	街頭演説	3	0.4
6	インターネット	7	0.9
7	近所の住人との会話	77	9.8
8	住民説明会・集会	18	2.3
9	その他	14	1.8
10	参考にしたものはない	161	20.4
11	わからない	33	4.2
99	無回答	16	2.0
	合計	789	100.0

		【臼田・浅科・望月】	
			%
1	市の広報や配布資料	294	38.9
2	賛成派・反対派などのチラシ	110	14.6
3	テレビ	17	2.3
4	新聞	36	4.8
5	街頭演説	2	0.3
6	インターネット	1	0.1
7	近所の住人との会話	79	10.5
8	住民説明会・集会	25	3.3
9	その他	6	0.8
10	参考にしたものはない	142	18.8
11	わからない	19	2.5
99	無回答	24	3.2
	合計	755	100.0

続いて [2] では、住民投票に関して一番参考にした情報源について尋ねているが、ここでもやはり市の広報や配布資料を選んだ人が最も多く、その割合は4割弱に上る。この数字は他の情報源や「参考にしたものはない」との回答と比べてもやや飛び抜けており、今回の住民投票においては、市が発信した情報が賛否を決める際の判断材料としても大きな役割を果たしたと言えそうである。

10. 組織・人物からの働きかけ

[3] 今回の住民投票に関して、次の中では、どこ(誰)からの働きかけを一番参考にしましたか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

		【旧佐久市】	%
	市長	78	9.9
	市議会議員	39	4.9
	市職員	24	3.0
	知人・友人	149	18.9
	家族・親戚	173	21.9
	町内会や自治会	33	4.2
	職場	50	6.3
	その他	7	0.9
	参考にしたものはない	373	47.3
	わからない	30	3.8
99	無回答	22	2.8
	合計	789	100.0

		【臼田・浅科・望月】	%
	市長	62	8.2
	市議会議員	51	6.8
	市職員	20	2.6
	知人・友人	147	19.5
	家族・親戚	147	19.5
	町内会や自治会	29	3.8
	職場	49	6.5
	その他	5	0.7
	参考にしたものはない	348	46.1
	わからない	28	3.7
99	無回答	27	3.6
	合計	755	100.0

組織や人物などによる働きかけについて尋ねた [3] では、過去4回の調査と同じく「参考にしたものはない」が最も多くなっている。他の事例と同様に、周囲の人物や有力者、組織などによる働きかけに頼るとい形ではなく、自らの考えに基づいて投票行動を決定した有権者が比較的多かったと言えそうである。

他方で、今回の住民投票は柳田市長の強い意向によって実現したケースでもあることから、この設問で「市長」を選択する回答が多くなることも予想されたが、その割合は1割弱にとどまっている。同様に市長自身が住民投票を発議した山口県岩国市における調査では、「市長」を選んだ回答が3割強に上っているが、その要因は、争点となった基地問題に関して市長自ら明確な「反対」の意思を事前に示していたことにあると思われる。佐久市の住民投票の場合には、柳田市長が総合文化会館の建設に関して事前の態度表明を行わなかったため、その是非はともかくとして、そうした点が岩国市のケースとの違いとなって表れていると考えられる。

1.1. 情報の取得度

[4] では、今回の住民投票で判断材料となる情報を、あなたはどの程度得られたと感じましたか。一つ選んで○を付けてください。

		【旧佐久市】	%
1	十分得られた	70	8.9
2	ある程度得られた	374	47.4
3	どちらともいえない	175	22.2
4	やや不十分	81	10.3
5	不十分	66	8.4
99	無回答	23	2.9
	合計	789	100.0

		【臼田・浅科・望月】	%
1	十分得られた	68	9.0
2	ある程度得られた	344	45.6
3	どちらともいえない	187	24.8
4	やや不十分	81	10.7
5	不十分	53	7.0
99	無回答	22	2.9
	合計	755	100.0

住民投票に関する情報の取得度について尋ねたこの設問では、「十分得られた」と「ある程度得られた」の合計がいずれの地域でも半数を超えているが、この数字は、全国的も大きな注目を集め積極的なメディア報道がなされた山口県岩国市のケースとほぼ同じである。

[1] や [2] の単純集計の結果と併せて考慮すると、ここでの回答結果は、行政による情報提供が必要十分なものであったのと同時に、多くの住民が主体的に情報を取得したうえで、住民投票に臨んでいたことを示すものと捉えることができる。